

# 【 令和5年度第1回 高松圏域自立支援協議会全体会 】

日時 令和5年5月30日(木) 15:00~17:00

場所 かがわ総合リハビリテーション福祉センター

## I. 開会

## II. 各部会活動報告

就労支援部会) かがわ総合リハビリテーションセンター成人支援施設

精神保健福祉部会) 障害者地域生活支援センターほっと

相談支援部会) 障害者生活支援センターたかまつ

身体障害者支援部会) 障害者生活支援センターあい

知的障害者支援部会) 相談支援センターりゅうん

発達障害部会) 発達障害者支援センター「アルプスカガワ」

代理 高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点

子ども部会) 地域生活支援センターこだま

医療的ケア部会) 一般社団法人 garyu

当事者団体・家族会連絡会) 相談支援事業所ライブサポートセンター

居宅サービス事業所連絡会) 地域活動支援センタークリマ

B型事業所連絡会) 社会福祉法人ナザレの村

運営会議) 高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点

## III. 災害時対応について

高松圏域自立支援協議会災害時の取り組み報告

意見交換

## IV. その他

令和5年度 第1回高松圏域自立支援協議会総会出席者名簿(敬称略)

No.	団 体	職 名	氏 名	出欠
1	高松市医師会(かがわ総合リハビリテーション病院)	医 師		出
2	東讃保健福祉事務所	主 任		出
3	香川県精神保健福祉センター	主 任		出
4	香川県障害福祉相談所	主 任		出
5	香川県立川部みどり園	地 域 生 活 支 援 課 長		出
6	高松公共職業安定所	統 括 職 業 指 導 官		出
7	障害者就業・生活支援センターオリーブ	セ ン タ ー 長		出
8	障害者就業・生活支援センター共生	主任就業支援ワーカー		出
9	香川県立高松支援学校	教 諭		出
10	香川県立香川中部支援学校	教 諭 ( 相 談 支 援 部 長 )		出
11	香川県立香川東部支援学校	教 諭		欠
12	香川県立聴覚支援学校	進 路 指 導 主 事		出
13	香川県立視覚支援学校	教 諭 ( 進 路 指 導 主 事 )		出
14	香川大学教育学部附属特別支援学校			欠
15	高松市総合教育センター	指 導 主 事		出
16	高松市健康づくり推進課			欠
17	香川県発達障害者支援センターアルプスかがわ			欠
18	かがわ総合リハビリテーション成人支援施設	科 長		出
19	直島町住民福祉課	課 長 課 長 補 佐		出
20	三木町福祉介護課	課 長 主任社会福祉士		出
21	高松市障がい福祉課	健康福祉局次長兼健康福祉局福祉事務所長障がい福祉課長 認 定 係 係 長		出
22	一般社団法人garyu	相 談 支 援 専 門 員		出
23	高松市社会福祉協議会 訪問介護事業所	サ ー ビ ス 提 供 責 任 者		出
24	障害者生活支援センターあい	相 談 支 援 専 門 員		出
25	地域活動支援センタークリマ	相 談 支 援 専 門 員		出
26	障害者地域生活支援センターほっと	相 談 支 援 専 門 員		出
27	障害者生活支援センターたかまつ	所 長		出
28	医療法人社団 ライブサポートセンター	管 理 者		出
29	地域生活支援センターこだま	セ ン タ ー 長		出
30	相談支援センター りゅううん	主任相談支援専門員		出
31	社会福祉法人ナザレの村	統 括 管 理 者		出
32	高松市障がい者基幹相談センター 中核拠点	セ ン タ ー 長 副 セ ン タ ー 長 相 談 支 援 員		出

【R4年度ふりかえりとR5年度計画・予算】

No.	部会名	R4年度 目標	R4年度 実績と評価	R5年度 目標	R5年度 予算
1	就労支援部会	<p>○イベント委員会 しごとサロンたかまつ・ジョブチャレかがわ・雇用セミナーの企画・実施</p> <p>○広報・調査委員会 高校大学プロジェクト・・・高校・専門学校・大学の進路担当等との連携強化 ・小豆島について情報交換</p> <p>○就労移行支援事業所等委員会 移行事業所視察・訓練内容確認・制度情報共有・事例検討</p> <p>○A型委員会 A型事業所視察・訓練内容確認・制度情報共有・事例検討</p> <p>○就労アセスメント委員会 ・特別支援学校のB型希望者のアセスメント実施 ・就労系アセスメントの検討・就職相談しようパンフレットの見直し</p>	<p>○イベント委員会 しごとサロンたかまつ・ジョブチャレかがわ・実施をすすめたが、直前でコロナのため中止。参加希望者に対して個別に対応した。・雇用セミナーの企画・実施・・・ハイブリッドで実施した。企業参加者が少なかった。</p> <p>○広報・調査委員会 高校大学プロジェクトと小豆島について情報交換した。高校のジョブサポートティーチャーとの連携を考えていたが、コロナのため訪問できず。差し込みチラシ作成した。</p> <p>○就労移行支援事業所等委員会 移行事業所視察・ウェルビー高松センター・リハ生生活訓練の視察・情報提供。訓練内容確認・制度情報共有・事例検討・各機関の連携の確認</p> <p>○A型委員会 A型事業所視察・訓練内容確認・制度情報共有・事例検討</p> <p>○就労アセスメント委員会 特別支援学校のB型希望者のアセスメント実施・・・R4年11月実施。</p>	<p>○イベント委員会 しごとサロンたかまつとジョブチャレかがわを同時開催・雇用セミナーの企画・実施</p> <p>○広報・調査委員会 高校大学プロジェクト・小豆島について情報交換 イベントの広報強化</p> <p>○就労移行支援事業所等委員会 移行事業所視察・訓練内容確認・制度情報共有・事例検討</p> <p>○A型委員会 A型事業所視察・訓練内容確認・制度情報共有・事例検討</p> <p>○就労アセスメント委員会 特別支援学校のB型希望者のアセスメント実施 就労選択支援事業検討</p>	<p>支出内容</p> <p>金額</p> <p>しごとサロンたかまつチラシ(2000枚) 5,500</p> <p>雇用セミナーチラシ 15,000</p> <p>雇用セミナー資料印刷代 15,000</p> <p>雇用セミナー講師謝金 20,000</p> <p>雇用セミナー講師交通費 6,000</p> <p>雇用セミナー講師お茶代 2,000</p> <p>研修 講師謝金 20,000</p> <p>研修 講師謝金 20,000</p> <p>合計 103,500</p>
		<p>①精神障害者支援関係者で医療と福祉のワークショップをリモートを活用して実施する。</p> <p>②精神科病院からの高齢者の退院支援のポイントに則った支援の振り返りを行う。包括支援センター職員との合同研修を実施する。</p> <p>③ピアサポーターの活動促進、高松圏域独自の交流、研修の場を創設し運営する。</p> <p>④精神科病院の地域移行に向けた取り組みをサポートする。</p> <p>⑤コア会議を年間3回開催し、部会の進捗を管理する。</p> <p>⑥精神医療保健福祉の支援者対象の事例検討会を開催する。</p>	<p>①令和4年度交流企画をリモートと実合形式で2回実施。のべ参加者26名。支援者間の顔の見える関係づくりの機会となった。</p> <p>②包括支援センター職員との合同研修を11月に実施。連携を強化するという意味で効果的なものとなった。</p> <p>③ピアサポート活動推進のためのパンフレット作成し、周知方法についても検討。</p> <p>④地域移行支援サービスに限らず、病院内の退院支援の取り組みについて部会内で共有。感染予防の対策を講じる必要もあり、部会の活動として外部からの課題へのアプローチが難しい。</p> <p>⑤5月と9月にコア会議を実施。進捗と今後の方向性について確認。</p> <p>⑥未実施。 事例提供の声かけやニーズの把握などが十分にできていない。</p>	<p>①精神障害者支援関係者で医療と福祉の連携企画を、参加のハードルが上がり過ぎないように継続予定。</p> <p>②前回の研修をブラッシュアップさせ、高松市内の主任介護支援専門員を対象に研修を企画する予定。</p> <p>③作成したパンフレットを活用した普及啓発を予定。</p> <p>④引き続き、地域移行支援サービスに限らず、病院内の退院支援の取り組みについて部会内で共有。必要に応じて部会からのアクションを起こす方向で検討していく。</p> <p>⑤引き続き、コア会議を年3回実施予定。進捗と方向性について適宜、確認する。</p> <p>⑥令和5年度のスーパーバイザー派遣事業の方向性に合わせて、チラシを作成したうえで、各関係機関に周知する予定。</p>	<p>支出内容</p> <p>金額</p> <p>ピアサポーター-被災者会議6回分 90,000</p> <p>資料印刷費 (おま-ピアWG-高松VWG) 24,000</p> <p>案内文発送 (切手代) 2,000</p> <p>合計 116,000</p>
2	精神保健福祉部会	<p>○地域課題を抽出し、その解決に向けて取り組み。</p> <p>○災害時、緊急時対応の計画作成に関する研修を行い、地域を巻き込んだチーム支援のスキルを学ぶ。</p> <p>○圏域内の相談支援専門員のネットワークを構築し、協働するしくみを浸透させる。</p>	<p>○部会自体はZOOM（ハイブリッドもあり）を主として、毎月実施した。必要な情報や制度について随時情報提供し、共有できた。また、実際に兼合しての部会ではできなかったが、GWを何回か取り入れて、受動的に参加する機会を持ち、横のつながりを形成するきっかけとしたが、やはり集合での効果を望む声も出された。</p> <p>○様々なテーマで研修を実施し、実際に計画相談を行う上で必要となるスキル等について部会員同士で学びあう機会を持ち、有益であったとの意見が寄せられた。</p> <p>○各エリアでの定期的なミーティングが実施できていて、エリア内での協力体制が整いつつある。</p> <p>○部会運営に関しては、部会前にコア会議を開催し打ち合わせをした上で当日の部会に臨むようにし、できるだけ多くの部会員の意見を反映させることを心がけた。</p>	<p>○R4年度に抽出された地域課題の解決に向けて、WG等を作り、解決に向けて取り組む。</p> <p>○災害時、緊急時対応の計画作成に関するモデル事業に参加し、それを参考に、地域を巻き込んだチーム支援のスキルを身に付ける。</p> <p>○GSVを定期的に行い、相談支援専門員の相談支援スキルの向上を図るとともに、圏域内の相談支援専門員同士の協力体制の構築等を促進・浸透させる。</p> <p>○先進県等から講師を招聘し、相談支援スキル向上のための研修会を実施する。</p> <p>○R5年度の部会長等の改選に向けて、部会員の参加意欲をより高めるための、運営体制の見直しを図る。</p>	<p>支出内容</p> <p>金額</p> <p>高松市出張相談費 (990円×3人×4回=11,800円) 11,800</p> <p>研修講師 謝金、旅費等 43,200</p> <p>合計 55,000</p>
		<p>○地域課題を抽出し、その解決に向けて取り組み。</p> <p>○災害時、緊急時対応の計画作成に関する研修を行い、地域を巻き込んだチーム支援のスキルを学ぶ。</p> <p>○圏域内の相談支援専門員のネットワークを構築し、協働するしくみを浸透させる。</p>	<p>○部会自体はZOOM（ハイブリッドもあり）を主として、毎月実施した。必要な情報や制度について随時情報提供し、共有できた。また、実際に兼合しての部会ではできなかったが、GWを何回か取り入れて、受動的に参加する機会を持ち、横のつながりを形成するきっかけとしたが、やはり集合での効果を望む声も出された。</p> <p>○様々なテーマで研修を実施し、実際に計画相談を行う上で必要となるスキル等について部会員同士で学びあう機会を持ち、有益であったとの意見が寄せられた。</p> <p>○各エリアでの定期的なミーティングが実施できていて、エリア内での協力体制が整いつつある。</p> <p>○部会運営に関しては、部会前にコア会議を開催し打ち合わせをした上で当日の部会に臨むようにし、できるだけ多くの部会員の意見を反映させることを心がけた。</p>	<p>○R4年度に抽出された地域課題の解決に向けて、WG等を作り、解決に向けて取り組む。</p> <p>○災害時、緊急時対応の計画作成に関するモデル事業に参加し、それを参考に、地域を巻き込んだチーム支援のスキルを身に付ける。</p> <p>○GSVを定期的に行い、相談支援専門員の相談支援スキルの向上を図るとともに、圏域内の相談支援専門員同士の協力体制の構築等を促進・浸透させる。</p> <p>○先進県等から講師を招聘し、相談支援スキル向上のための研修会を実施する。</p> <p>○R5年度の部会長等の改選に向けて、部会員の参加意欲をより高めるための、運営体制の見直しを図る。</p>	<p>支出内容</p> <p>金額</p> <p>高松市出張相談費 (990円×3人×4回=11,800円) 11,800</p> <p>研修講師 謝金、旅費等 43,200</p> <p>合計 55,000</p>

[ R4年度 ふりかえり ]

No.	部会名	R4年度 実績と評価		R5年度 目標		R5年度 予算	
		R4年度 目標	R4年度 実績と評価	R5年度 目標	R5年度 予算	支出内容	金額
4	身体障害者支援部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の対応に関して</li> <li>・当事者から支援者へ向けた講演会の企画</li> <li>・起震車の体験</li> <li>・ピアサポーター活動</li> <li>・ピアサポーターの登録、派遣の仕組み、研修等について事務局とともに検討する。</li> <li>・地域移行</li> <li>・県協議会の動向を把握して取り組みを検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害弱者ネットワークへの定期的な訪問によりつながりができた。今後災害弱者ネットワーク内で行う会議等への参画を行い、災害時の対応につなげていきたい</li> <li>・R5.3.8に起震車の体験と煙体験を行う。障がいのある人に自身で揺れを感じることや、支援者にも災害時のことをイメージしてもらう。</li> <li>・身体障害者のピアサポーター登録完了している。活躍の場を考えて登録だけで終わらないようにしていきたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き災害時の身体障害者を中心とした移動に困難のある方を対象に活動を続けたい。</li> <li>また、ピアサポーターとしての活躍の場があるかどうかメンバーと検討していく。ピアサポーターの高齢化に伴い、新たなピアサポーターの確保が必要な状況がある。視覚障害者でピアサポーター登録をしてくださる方を探したい。</li> <li>講演会</li> <li>今年度開催できなかった災害時に関すること、当事者から支援者へ向けた講話の実施を再調整する</li> <li>課題の検証</li> <li>ニーズ調査の結果から災害時の次にニーズの高い課題を再確認し、取り組み内容を決める。</li> <li>部会の構成メンバーの検討</li> <li>視覚障害や聴覚障害の専門性の高い機関との連携を深める</li> <li>取り組みをおこない、必要に応じて参加いただくことも検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講演会出張費等 20,000</li> <li>起震車体験経費 10,000</li> <li>その他雑費 10,000</li> </ul>	合計	40,000
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○現なきあとWG</li> <li>・緊急に短期入所を利用する時の準備物リストをHPに掲載する</li> <li>・香川県社会福祉協議会との成年後見制度に関する情報交換</li> <li>○地域移行WG</li> <li>・GHサービス管理責任者との意見交換</li> <li>・課題の検討（養護学校高等部卒業後の生活の場について）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○部会開催 4回</li> <li>・ワーキングの取組みを共有、協議内容を深めた</li> <li>○現なきあとWG 2回？</li> <li>・緊急に短期入所を利用する時の準備物リストを作成したが、HP掲載がまだ実施できていない。</li> <li>・香川県社会福祉協議会との成年後見制度に関する情報交換が未実施となっている。（3月開催を予定）</li> <li>○地域移行WG 3回</li> <li>・GHサービス管理責任者との意見交換を実施。介護包括支援型、外部サービス支援型、日中サービス支援型といったそれぞれの形態で事業する中での運営（経営や人員確保の困難さ）や利用者支援に関する課題等を聞き、地域資源について協議を深めた。</li> <li>・施設入所児童の養護学校高等部卒業後の生活の場が見つかりにくくなっている事に関して、関係者から情報を収集・共有して、対応を協議中。他地域の児童もいることから、県自立支援協議会地域移行部会にも報告し、共有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○部会開催を年4回で予定。各ワーキングでの協議を継続するほか、内容により部会全体で取り組みを行う。</li> <li>○まずは、昨年度の積み残しを早急に進める。</li> <li>○今年度は、意思決定支援と強度行動障害に関する取り組みを更に強化するものとし、研修の開催や周知活動を実施していく。</li> <li>○強度行動障害については、スーパーバイザー派遣事業を部会で運営していくことを提案。スーパーバイザーとして活躍して頂いている方を部会の新メンバーとして依頼し、層を厚くして協議を進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修・印刷代（意思決定） 15,000</li> <li>研修・印刷代（強度行動） 20,000</li> <li>周知活動印刷代（強度行動） 10,000</li> <li>部会印刷代等 5,000</li> </ul>	合計	50,000
6	発達障害部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) これまでに作成した『高校生活ガイドブック』を、高校の生徒指導等の現場で実際に活用してもらえるように、具体的に働きかける。</li> <li>2) 高松市社協の『まるごと相談員』との情報共有や連携を目指して、情報交換会や研修会等を定期的実施するための準備を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) について</li> <li>&lt;実績&gt;</li> <li>・ガイドブックのPRチラシを作成した。</li> <li>・県教委主催のSSW等の連絡会で配布＆アナウンスした。またチラシを県内すべての高校に郵送した。</li> <li>&lt;評価&gt;</li> <li>・チラシ配布後の問い合わせは今のところ特別支援学校1件のみ。</li> <li>・高校側のニーズを掘り起こすことにはつながらなかった。</li> <li>2) について</li> <li>&lt;実績&gt;</li> <li>・相談員と高松市の担当者に依頼して、基幹相談支援センター会議室で、情報交換の機会を持った。</li> <li>&lt;評価&gt;</li> <li>・まるごと相談の状況の理解につながった。</li> <li>・情報交換を一度実施したのみで、その後の継続的な実施や、ケース検討会などの取り組みにはまだつながっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) について</li> <li>・チラシの再送付などPRを再実施する。</li> <li>・モデル校を依頼して、実際に生徒に対して使用し、課題の考察を行う。</li> <li>2) について</li> <li>・相談員と2回目の情報交換会を実施して、定期的な会合の在り方について話し合う機会をもつ。ケース検討を都度実施することや、まるごと相談員がつながっているネットワークに障害者自立支援協議会のことを知ってもらう取り組みにつなげていく。</li> <li>3) こども部会と共同で、放課後等デイサービス事業所のスキルアップに関する取り組みを検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>郵送料 10,000</li> <li>研修会等資料印刷費 5,000</li> </ul>	合計	15,000

No. 部会名	R4年度 目標	R4年度 実践と評価	R5年度 目標	R5年度 予算	
				支出内容	金額
7 こども部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童発達支援・放課後等デイサービス（事業所と路す）の情報をHPに掲載する</li> <li>・事業所に対しての研修会、連絡会、周知会等を実施する</li> <li>・医療ケア部会、発達障害部会と課題を共有し、部会連携を図る</li> </ul>	<p>【実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・随時、新規事業所の情報をHP上に掲載中</li> <li>・4月に医療ケア・発達障害部会の部長との話し合いを行い、課題を出し合う。</li> <li>・9月に事業所対象に虐待防止研修を実施（協議会開催）故子・児発より14事業所が出席</li> <li>・11月に匝島町の療育体制について、匝島町の担当者、保健師と話し合いを行う。</li> </ul> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で対面による部会、事業所連絡会は開催出来ておらず、一部のコアメンバーからの意見をメールで集約している。</li> <li>・福祉サービスのニーズ調査アンケートの結果の報告がまだ出ていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部会の目的の再確認</li> <li>・コア会議を開催</li> <li>・本部会の開催</li> <li>・事業所連絡会の開催</li> <li>・匝島町の療育体制についての検討</li> <li>・発達障害部会と医療ケア部会との連携</li> <li>・災害時のモデルケース（児童）</li> <li>・任期満了に伴うR6年度に向けた新体制について</li> </ul>	会場費	6,500
				資料	2,000
				交通費（匝島往復×3人）	7,000
				駐車場代（高松港）	4,500
				合計	20,000
8 医療的ケア部会	<p>課題の抽出・医療的ケア児等コーディネーターのスキル向上</p>	<p>年3回の医療的ケア部会を開催し、話し合いをしてきたが基本的には情報を伝えるのがメインで、課題の抽出とまでは至らなかった。</p> <p>コーディネーターの研修に関しては、県で開催するフォローアップ研修とは別に、圏域での研修を実施、辞令検討をおこなった。この研修とは別で、新規相談の窓口となる基幹相談支援事業所のスタッフにも、研修を行った。</p>	<p>部会のメンバーが直接的支援に関わるメンバーではなく、課題の抽出がしづらい。しかし、ソダテルにあがっている課題・個々での相談場面では課題が上がっているので、その課題を大切に、解決に向けた取り組みをワーキンググループを作り、そこで話し合ってもらおうようにしていく。その内容を年3回の部会で共有する。ワーキンググループには、色々なメンバーに参加してもらおう。スーパーバイザーとして、ソダテルにもしっかり関わってもらおう。</p>	資料印刷代	1,000
				フォローアップ研修講師水代	500
				フォローアップ研修印刷代（印刷費は別項）	5,000
				雑費	3,500
				合計	10,000
9 居宅サービス事業所連絡会	<p>昨年度までの連絡会をより活性化させるため、およびヘルパーに関する地域課題（人員不足、密度訪問介護や移動支援の事業所不足等）に取り組むために、コアになる事業所を再編して、どのような連絡会が事業所のニーズに合っているか、地域課題の解決に向けて取り組んでいけるか、などについて協議すること。協議の結果、準備ができ次第連絡会を開催すること。</p>	<p>5/23zoomにて協議。・年間の開催日を決めて開催する（例：5、9、12、3月の第3水曜日午前など）・行政も参加してもらおう・エリアを意識した集まりも検討・相談支援への発信を尋ねる・参加することで得られるメリットを準備するなどが話し合われた。</p> <p>9/7zoomにて協議。12/21に第1回連絡会を開催することとなった。内容は、コロナ対応に関する情報交換（ガワンテック実技指導も）、困りごとに関する情報交換。</p> <p>参加する事業所にとっては連絡会が「参加することで（遠やかに）得られるメリットがある」ことが必要である。一方で、同じ地域で同じ事業をおこなう事業所同士として「（時間がかかっても）地域課題への取り組み」も必要である。今後、この2点を念頭に開催を考えていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡会を3回開催する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回：7月12日(水)AM 加算について(様々な加算と申請の仕方について)</li> <li>第2回：11月15または22日(水)AM 移動支援について</li> <li>第3回：2月14または21日(水)AM カスタマーハラスメントについて</li> </ul> </li> <li>・コアメンバー会議を4回開催する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回：5月26日(金)AM 第1回連絡会について</li> <li>第2回：9月 第1回のふり返りと第2回連絡会について</li> <li>第3回：12月 第2回のふり返りと第3回連絡会について</li> <li>第4回：3月 第3回のふり返りと来年度計画について</li> </ul> </li> </ul>	第1回講師料3000円×3人	9,000
				第2回講師料3000円×3人	9,000
				第3回講師料3000円×3人	9,000
				印刷代10円×10p×50人×3回	15,000
				郵送料84円×5×3回	1,260
				合計	43,260

【 R4年度 ふりかえり】

No.	部会名	R4年度 目標	R4年度 実績と評価	R5年度 目標	R5年度 予算	
					支出内容	金額
10	当事者家族会連絡会	障がいのある方及びその家族が抱える諸課題や問題について、意見や情報を提供してもらい、少しでも安心安全な生活ができるようにする。	R4年10月13日に、対面とZOOMで連絡会を実施し①当事者団体・家族会連絡会の活動報告や防災に対する意見交換会を実施。 ・さぬき市では、当事者団体・家族会連絡会で作成した災害時用パンダナを基に新たに災害時用パンダナを作成。 ・園島町では、当事者団体・家族会連絡会で作成した災害時用パンダナを、当事者の方に直接配布したり福祉避難所に常備してくれている。さらに、ホームページにおいても、広報してくれている。	・ホームページで各家族会の紹介。 ・障がいの理解をしてもらえる機会の検討。 ・障がい者差別解消法の啓発活動。 ・マイナンバーカードや便利なアプリの使い方講習。 ・購入した防災グッズを使用した後に、本人の障がいに合わせて必要な物をプラスして、自分の防災セットを完成させる検討会を実施する。	検討会2回実施の講師料と運営費	55,000
					合計	55,000
11	B型連絡会	連絡会立ち上げ準備として、当年度はB型事業所の抱えている様々な課題抽出について実行委員を中心として話し合っていく。	実行委員会を開催し課題抽出を行って行く中で、まずはB型事業所同士の連携づくりを進めていくために事業所見学会を開催することとなった。その後、見学会の内容を基に座談会を開催し気軽に情報交換ができるネットワークづくりの礎を築くことができた。	今年度より連絡会を立ち上げるにあたり、B型事業所を取り巻く環境はコロナ禍や物価高騰の影響を受け厳しい状況にあるが、昨年度に引き続き様々な課題を抽出し検討した上で解決方法を見出していく。 取り組んでいく主なテーマとしては、工賃向上、新規事業創出・商品開発、共同受注、利用者の重度化・高齢化への対応、障がい特性に応じた専門的な支援など多岐にわたるが、事業所見学会、意見交換会（現場スタッフを対象）、座談会（管理職を対象）を各1回開催し、B型事業所全体の工賃向上や支援の質向上に取り組んでいける仕組み作りを構築していく。	会場費	20,000
					研修資料代	10,000
合計	30,000					
12	事務局	<p>■事務局内運営会議全体で取り組む課題、部会同士で連携して協議していく課題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に関する取り組み</li> <li>・ヘルパーに関する取り組み</li> <li>・障がい児支援に関する取り組み</li> <li>・就労支援に関する取り組み</li> <li>・ピアサポーター推進の取り組み</li> </ul> <p>■B型事業所連絡会■B型事業所同士の交流を創出することで、顔の見える関係作り、お互いを高め合う環境を整える。</p> <p>■意思決定支援研修検討会■障がい福祉サービス利用者の意思決定支援における基本的な知識を獲得すると共に、相談支援専門員とサービス管理責任者等が演習を通じて意見交換や自身の支援の振り返りができる機会を持つことを目標とする。</p> <p>■訪問系サービス見守りWG■相談支援部会の相談支援専門員と合同でグループホーム退所後、地域生活を継続させるために必要な支援のあり方について事例を通して学ぶ機会を持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に関する取り組み…避難行動要支援者名簿と保健センターの名簿登録について整理した。また、避難に関する支援をモデルケースを選定して取り組むことを決定し、モデル選定エリア、モデル対象者像、検証の体制を協議した。</li> <li>・ヘルパー、障がい児、小規模事業所対象の障がい者虐待防止研修開催（高松市差幹相談支援センターと協議会こども部会との共催）。</li> <li>・今年度より協議会としてのZOOM活用環境を整え、各部会活動にて利用。</li> <li>・その他、主任相談支援専門員研修、日中活動支援型GH評価、副会長の選定などを協議した。</li> <li>・災害時に関する取り組みでは、モデルケースの選出～各ケースの協議と進む予定である。各ケースの進捗状況の管理やそこから挙がる課題を集約する体制を検討し、効率の良い協議を目指す。</li> <li>・各部会をはじめとする協議会の活動が、スムーズに引き継がれていく必要がある。</li> <li>・全体会が開催できていない。</li> </ul>	<p>①障がい児者の災害時の対応について、モデルケースを選定し避難計画作成と避難行動訓練の実施に取り組む。市町にて、災害時の避難行動要支援者名簿への登録を推奨し、登録者の個別避難計画の作成に取り組んできたが、障がい児者の登録、計画作成はまだ進んでいない。また、協議会身体障がい者支援部会において、被災経験のある障がい福祉事業所の職員を講師に研修会を開催したり、相談支援部会では、緊急時・災害時の対応プランの作成などの促進に取り組んできたが、まだまだ災害時に備える取り組みを推進していく必要がある。</p> <p>そこで、令和4年度、協議会全体の取り組みとして災害時の対応について協議することとし、運営会議を中心に検討を続けてきた。そして令和5年度は、協議会全体でモデルケースを選定し、そのモデルケースについて、避難計画の作成と避難行動訓練の実施に取り組む、確認された課題を運営会議を通じて市町関係部署と共有していく1年とする。</p> <p>②令和4年度に引き続き、障がい児者の権利擁護に関する取り組みをさらに推進していく。</p> <p>意思決定支援の重要性について園域内関係者への理解を促進していくために、令和3年度より意思決定支援ワーキンググループをつくり、協議を始めた。令和4年度は、抽出された好事例をもとに研修会を開催したところ、多くの方の参加があり、関係者の意思決定支援の重要性についての関心の高さを感ずることができた。</p> <p>また、令和4年度は、障害者虐待防止法の改正により各施設・事業所に障害者虐待防止研修の実施が義務化されたことから、小規模事業所を対象とした虐待防止研修も実施した。</p> <p>権利擁護に関する取り組みを単年度で終わらせるのではなく、さらに推進していく。</p> <p>③目標①、②を推進することと各部会の活動を通じて、関係者に協議会の活動や取り組みについてひろく知ってもらう。</p>	ネット関係固定費	185,000
					文具等	20,000
運営委員委託費	60,000					
Sw.関係費	130,000					
合計	395,000					

協議会予算計 932,760

67,240

## 高松圏域自立支援協議会災害時対応に関する取り組み

災害時に関する取り組み…運営会議にて、高松市社会福祉協議会地域支援課・高松市健康づくり推進課難病担当・高松市健康福祉総務課にも加わっていただき、避難に関する支援をモデルケースを選定して取り組むことを決定し、モデル選定エリア、モデル対象者像、検証の体制等を協議した。

### ◎対象災害

事前に準備して取り組める水害（高潮、洪水、土砂災害）を対象とした。

### ◎対象エリア

別紙「高松市内河川・高潮災害時浸水高」を共有し、「災害なし」以外の全エリアを対象とすることとした。

### ◎対象者像

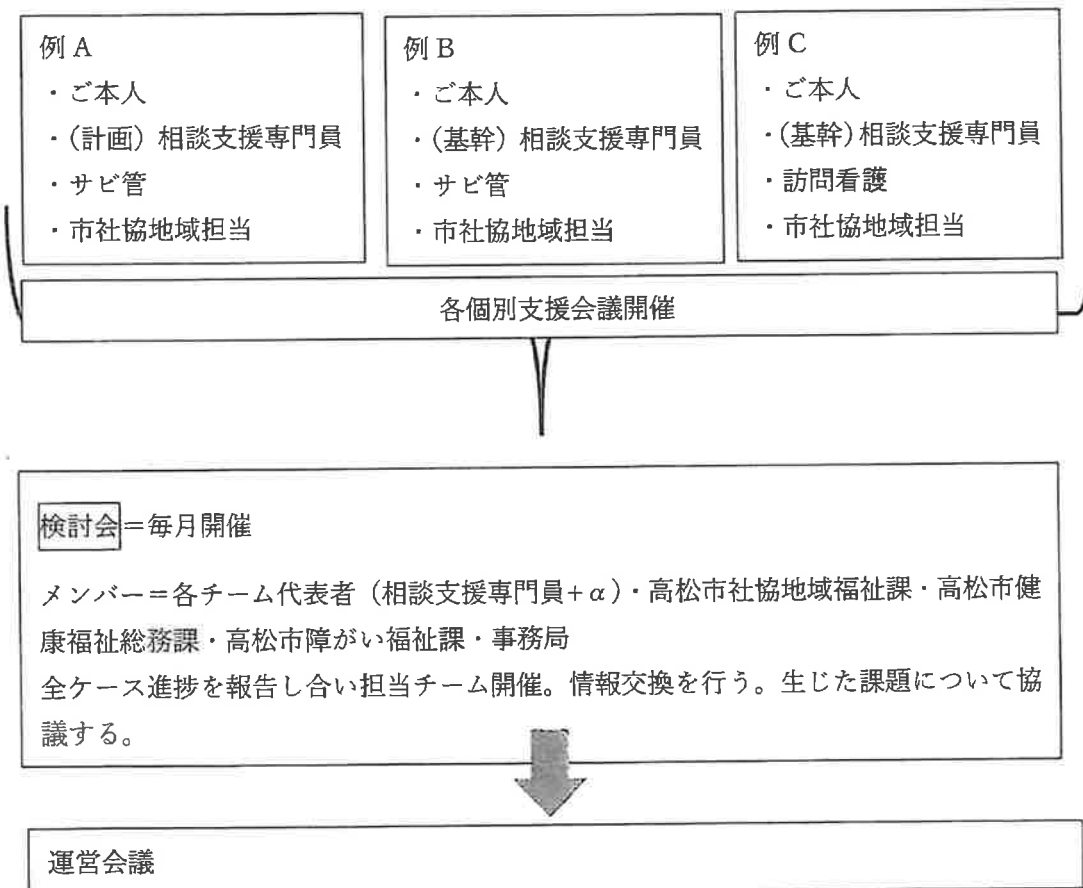
災害時の避難行動（移動、災害時の避難やその準備に関わる理解や判断など）に支障がある障がい児者を対象とし、身体・知的・精神・発達・相談・子どもの各部会、また基幹・災害弱者ネットワークからもモデルケースとなってもらえる約10ケース程度を選定することになった。

### ◎モデル候補ケース

No.	部会等	担当相談支援事業所
1	身体障がい者支援部会（障がい福祉サービスの利用がある方）	障害者生活支援センターたかまつ
2	知的障がい者支援部会（障がい福祉サービスの利用がある方）	相談支援センターりゅううん
3	精神保健福祉部会（障がい福祉サービスの利用がある方）	相談支援センターりゅううん
4	相談支援部会（障がい福祉サービスの利用がある方）	相談支援事業所ウェルネスサポート
5	こども部会（障がい福祉サービスの利用がある方）	相談支援センターフリーダム
6	こども部会（障がい福祉サービスの利用がない方）	地域生活支援センターこだま
7	高松市障がい者基幹相談支援センター	高松市障がい者基幹相談支援センター中核
8	地域拠点（障がい福祉サービスの利用がない方）	拠点 ライブサポートセンター
9	災害弱者ネットワーク（障がい福祉サービスの利用がある方）	（事務局）

◎進め方

- ・担当相談支援専門員から、モデルケース候補の方に取り組みの趣旨等を説明し同意書をいただく。
- ・担当相談支援専門員を中心に、災害時の対応についてのアセスメント取得、災害時の対応についての計画作成、担当者会議の開催、避難訓練の実施等を進めていく。その際、それぞれのケースの関係機関とも連携しながら進める。また、該当地域を担当する高松市社会福祉協議会職員のご協力もいただき、地域の関係者との橋渡し等についてもご相談する。
- ・毎月、全ケースの担当相談支援専門員等が集まりケースの進捗状況を報告し合い、情報交換、課題の共有を図る「検討会」を開催する。
- ・モデルケースについては「高松市避難行動要支援者名簿」への登録をすすめる。





**重要**

# 避難行動要支援者名簿登録等のお願い

～あなたの大切な命を守るために～

高松市では、災害時に自力で避難することが困難な方(避難行動要支援者)に対して、災害情報の提供や避難等の手助けが地域の中で素早く、安全に行われる体制づくりを進めています。

避難支援を希望される方の情報を名簿に登録し、個別避難計画(災害時の避難支援等の計画)を作成し、地域等と行政で情報共有し、災害時の避難支援や普段の見守りなどに役立てます。

## 1 登録方法は？

登録を希望される方は、「調査票(兼申請書)」に必要事項をご記入の上、高松市健康福祉総務課又はお近くのコミュニティセンターへご提出ください。

## 2 登録対象者は？

登録対象者は、右図の①～⑧のいずれかに該当する方のうち、災害時において地域で支援を希望する方です。ただし、支援を受けるために必要な個人情報を避難支援等関係者へ提供すること等に同意が必要です。

次の場合は登録の必要はありません。

- 福祉施設等の入所者及び入院患者
- 同居家族の支援が受けられる方  
(災害時の対応に不安がある場合は登録可能)

※なお、名簿への登録によって、災害時の支援が必ず保証されるものではありません。

### 避難行動要支援者名簿 登録対象者

- ① 要介護認定3～5
- ② 身体障害者手帳1級、2級
- ③ 療育手帳A又はA
- ④ 精神障害者保健福祉手帳1級
- ⑤ 障害支援区分3～6
- ⑥ 難病患者等
- ⑦ 75歳以上の高齢者のみの世帯
- ⑧ 以上の条件に準じる者

## 3 避難支援者とは？

避難支援者とは、日頃からの見守りを行ったり、災害時に避難情報の伝達や避難行動要支援者と一緒に避難する方です。

避難支援者は、ご近所にお住まいの方等を、申請者本人又はご家族で選定してください。

避難支援者本人に必ず同意を得てください。

避難支援者が見つからない場合は、地域の民生委員や自治会役員等に相談し、避難支援者を選定してください。

避難支援者は、ボランティア精神にもとづき支援を行うもので、法的な責任や義務を負うものではありません。

制度の取組については裏面をご覧ください。

お問合せ先

高松市 健康福祉総務課  
〒760-8571 高松市番町一丁目8番15号

TEL(087)839-2372  
FAX(087)839-2375

# 災害時要配慮者支援の取組について



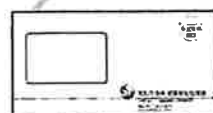
## 調査票(兼申請書)の提出

調査票(兼申請書)の様式を送付します。ご本人の状況に合わせて記入し、市へご返送ください。



## 高松市での情報整理

ご返送いただいた情報をもとに、市では、避難行動要支援者名簿及び個別避難計画を作成します。



## 個別避難計画をご本人へ送付

市は、作成した個別避難計画を避難行動要支援者(ご本人)へ送付します。内容確認のために、ご自身で保管しておいてください。



## 避難支援等関係者への情報提供

市は、作成した名簿や個別避難計画を避難支援等関係者へ情報共有します。

※避難支援等関係者：地域コミュニティ協議会、連合自治会、民生委員・児童委員、自主防災組織、地区社会福祉協議会、市社会福祉協議会、消防機関、警察機関、その他避難支援等の実施に携わる関係者



## 地域での見守り活動や防災訓練実施

地域支援組織等は、情報をもとに、地域における防災訓練や見守り活動を実施します。

※地域支援組織：地域コミュニティ協議会、連合自治会、民生委員・児童委員、地区社会福祉協議会、自主防災組織等を中心とした各地域の連携、協働の組織体制



## 登録内容の更新

地域支援組織等は、本人に聴き取りを行うなど、情報を最新の状態に更新します。

登録内容に変更があった場合は、高松市健康福祉総務課又はコミュニティセンターまでご連絡ください。

## 災害時の避難支援の実施

～逃げ遅れゼロ いざというとき、お互い助け合うことのできる地域へ～



避難行動 要支援者	氏名
	住所

避難するうえで段差や急勾配等、特に注意を要する事項がある場合は、作成をお願いします。

避難経路等 (任意)

避難経路等

避難時の留意事項

記載要領は右面をご覧ください

- 避難するうえで段差や急勾配等、特に注意を要する事項がある場合は、作成をお願いします。
- 特に注意を要する事項がない場合は、提出の必要はありません。  
(避難経路等の記入に関しては任意です。)
- 記入後は、「避難行動要支援者名簿登録・個別避難計画作成調査票(兼申請書)」と一緒にご返送ください。

氏名 高松 太郎  
住所 高松市〇〇町〇〇番地

4

自宅から避難所までの経路図や、留意事項を記入。

避難時の留意事項

- ・ 避難所は自宅から徒歩5分。
- ・ 杖を使って移動する。
- ・ 自宅の前の道に階段があり、注意が必要。
- ・ 近くに〇〇川があり、氾濫の危険がある。
- ・ 避難経路  
自宅→自動販売機のある道に出たら右折→〇〇交差点を左折→直進→隣切と川を越えて信号のある交差点を左折→〇〇小学校

避難支援等関係者に知っておいてほしいことなど、避難時の留意事項を詳しく記入。

河川・高潮災害時浸水高

コミ名	町名	洪水時 浸水高(m)	土砂災害	高潮時 浸水高(m)
龜阜	旅籠町	0.5	0	0
龜阜	中新町	0	0	0
龜阜	天神前	1	0	0
龜阜	中央町	1	0	0
龜阜	中野町	0.5	土砂災害	0
龜阜	龜岡町	0.5	0	0
龜阜	茶臼町	0.5	0	1
龜阜	茶臼町	0.5	土砂災害	1
龜阜	茶臼町	0.5	土砂災害	2
龜阜	菫町	1	0	2
龜阜	西町	2	0	2
龜阜	幸町	1	0	2
龜阜	峰山町	0	土砂災害	0
日新	新北町	1	0	2
日新	瀬戸内町	1	0	2
二番丁	扇町	2	0	2
二番丁	昭和町	1	0	2
二番丁	サンポート	0.5	0	2
二番丁	鯉町	2	0	2
二番丁	浜ノ町	1	0	2
四番丁	番町	2	0	2
四番丁	玉蓮町	1	0	2
四番丁	丸の内	0.5	0	2
四番丁	内町	0.5	0	2
四番丁	幕町	0.5	0	2
四番丁	西の丸町	1	0	2
四番丁	西内町	0.5	0	2
四番丁	兵庫町	1	0	2
四番丁	古新町	1	0	1
四番丁	藤屋町	0.5	0	1
四番丁	楯屋町	0	0	1
四番丁	鍛冶屋町	0.5	0	1
四番丁	丸亀町	0.5	0	1
四番丁	南新町	0.5	0	0
四番丁	龜井町	0.5	0	0
築地	瓦町	0.5	0	1
築地	田町	0	0	0
築地	塩屋町	0.5	0	2
築地	築地町	0.5	0	2
築地	塩上町	0	0	2
築地	八坂町	0.5	0	1
築地	福田町	0.5	0	2
築地	常盤町	0	0	1
築地	古馬場町	0.5	0	1
築地	御坊町	0.5	0	1
新塩屋町	今新町	0.5	0	1
新塩屋町	大江町	0.5	0	1
新塩屋町	百間町	0.5	0	1
新塩屋町	片原町	0.5	0	1
新塩屋町	轟屋町	0.5	0	2
新塩屋町	本町	0.5	0	2
新塩屋町	北浜町	0.5	0	2
新塩屋町	朝日町	0	0	2
新塩屋町	東浜町	0.5	0	2
新塩屋町	城東町	1	0	2
新塩屋町	朝日新町	0	0	2
新塩屋町	徳町	0.5	0	1
新塩屋町	井口町	0.5	0	2
新塩屋町	末広町	0.5	0	2
新塩屋町	権岡町	0.5	0	3
松島	松福町	0.5	0	2
松島	松島町	0.5	0	2
花園	粟田町	0	0	0
花園	多賀町	0.5	0	2
花園	花園町	0.5	0	1
花園	観光通	0.5	0	2
花園	観光町	0	0	2
花園	上福岡町	0.5	0	2
栗林	栗塚町	0	0	1
栗林	栗林町	0.5	0	0

災害なし……………	14町	8%
1種類災害あり…	59町	36%
2種類災害あり…	86町	52%
3種類災害あり…	7町	4%





河川・高潮災害時浸水高

コミ名	町名	洪水時 浸水高(m)	土砂災害	高潮時 浸水高(m)
栗林	桜町	0.5	0	0
栗林	楠上町	0.5	0	0
栗林	花ノ宮町	0.5	0	0
栗林	上之町	0.5	0	0
栗林	室町	0.5	土砂災害	0
栗林	室新町	0.5	0	0
鶴尾	東八ヶ野町	0.5	土砂災害	0
鶴尾	西八ヶ野町	0	土砂災害	0
鶴尾	経町	0.5	0	0
鶴尾	松並町	0.5	0	0
鶴尾	西壽昌町	0.5	土砂災害	0
鶴尾	勸使町	0.5	土砂災害	0
鶴尾	田村町	0.5	0	0
鶴尾	上天神町	0.5	0	0
太田	三条町	0.5	0	0
太田	今里町	0.5	0	0
太田	松園町	0.5	0	0
太田	伏石町	0.5	0	0
太田南	太田下町	0.5	0	0
太田南	太田上町	0	0	0
木太	木太町	5	0	3
古高松	春日町	5	0	2
古高松	栗田町	5	土砂災害	1
古高松	栗田町	2	土砂災害	1
屋島	屋島東町	0	土砂災害	1
屋島	屋島中町	0	0	1
屋島	屋島西町	0	土砂災害	2
前田	前田西町	5	土砂災害	0
前田	前田東町	5	0	0
前田	亀田町	1	0	0
川添	元山町	2	0	0
川添	東山崎町	2	0	0
川添	下田井町	1	0	0
林	林町	0	0	0
林	六条町	2	0	0
林	上林町	0	0	0
三谷	三谷町	0	土砂災害	0
多肥	多肥下町	0	0	0
多肥	多肥上町	0	0	0
多肥	出作町	0	0	0
仏生山	仏生山町	0	土砂災害	0
一宮	三名町	0	0	0
一宮	権角町	1	0	0
一宮	戒合町	1	0	0
一宮	一宮町	1	0	0
一宮	寺井町	1	0	0
川岡	川部町	0	0	0
川岡	照本町	0	土砂災害	0
円座	円座町	1	0	0
円座	西山崎町	0	土砂災害	0
檀紙	檀紙町	0	0	0
檀紙	御殿町	1	0	0
檀紙	中間町	0	土砂災害	0
檀紙	檀紙町	0	土砂災害	1
弦打	飯田町	2	0	0
鬼無	鬼無町	5	土砂災害	0
香西	香西本町	1	0	2
香西	香西東町	2	0	2
香西	香西南町	1	0	1
香西	香西西町	0.5	土砂災害	0
香西	香西北町	0	土砂災害	2
下笠居	神在川窪町	0	土砂災害	2
下笠居	植松町	0	土砂災害	0
下笠居	中山町	0	土砂災害	0
下笠居	生島町	0	土砂災害	2
下笠居	龜水町	0	土砂災害	2
女木	女木町	0	土砂災害	2
男木	男木町	0	土砂災害	2
川島	由良町	2	土砂災害	0

災害なし.....	14町	8%
1種類災害あり..	59町	36%
2種類災害あり..	86町	52%
3種類災害あり....	7町	4%

河川・高潮災害時浸水高

コミ名	町名	洪水時 浸水高(m)	土砂災害	高潮時 浸水高(m)
川島	川島本町	2	0	0
川島	川島夏町	1	0	0
川島	池田町	2	0	0
十河	小村町	0.5	0	0
十河	魚田南町	2	0	0
十河	十川西町	0	0	0
十河	十川東町	0	0	0
東植田	東植田町	0.5	土砂災害	0
東植田	菅沢町	0.5	土砂災害	0
西植田	西植田町	0.5	土砂災害	0
塩江	塩江町	0.5	土砂災害	0
香南	香南町	0	土砂災害	0
大野	香川町大野	1	0	0
大野	香川町寺井	1	0	0
浅野	香川町浅野	0	土砂災害	0
川東	香川町川東	0.5	土砂災害	0
川東	香川町川内原	0.5	土砂災害	0
川東	香川町東谷	0.5	土砂災害	0
川東	香川町支原下	0.5	土砂災害	0
国分寺北	国分寺町新居	1	土砂災害	0
国分寺北	国分寺町国分	1	土砂災害	0
国分寺南	国分寺町福家	2	土砂災害	0
国分寺南	国分寺町柏原	0.5	土砂災害	0
国分寺南	国分寺町新名	2	土砂災害	0
庵治	庵治町	0	土砂災害	2
牟礼	牟礼町	0	土砂災害	2

	災害なし……………	14町	8%
	1種類災害あり…	59町	36%
	2種類災害あり…	88町	52%
	3種類災害あり…	7町	4%



高松圏域自立支援協議会全体会

R5.5.31(水)15:00~17:00

<各部会の取り組み報告に関する質疑応答>

知的障害者支援部会への提案として、成年後見制度の促進が求められる中、各市町の中核拠点との協議を重ねていてもらいたい。

→権利擁護部会の立ち上げを計画。知的障害者支援部会との協力を図っていく。

就労支援部会への質問。フォーラムの参加企業について教えてほしい

→今年度は障害者雇用0企業に力点をおいて、取り組む。

教福連携の取り組み状況について

→支援学校では、数年前から担当者会議への参加や、学校で実施する研修のお知らせをこども部会を通して啓発しており、今後も発信していく予定。

就労選択支援事業に関する協議会での取り組みについて

→平成27年度に開始したB型アセスメントは就労支援部会で検討し、相談支援部会にも意見をもらいながら進めてきた。福祉的就労を選択した後も、チャンスがあったら一般就労へというご本人、ご家族のニーズが大切であり、B型連絡会、相談支援部会、就労支援部会等、各部会で協働しながら、よりよい取り組みを検討する。

<災害時対応に関する質疑応答>

■自立支援協議会で、災害時対応に向けた取り組みをしているのは良いことと感じる。被災時のことを考えると、通所の時間だけではなく、生活全般のことを相談支援専門員が把握しておく必要があるだろう。また、グループホームにおいては、365日の生活の場となるため、利用者様の生活をイメージしながら災害時対応について検討していく必要があると感じた。

■医療的ケアが必要な方に関しては、現在の取り組みに先駆けて、ワーキングを実施した。医療的ケアが必要な方に特化した計画を作成し、実際に避難訓練をしたケースでは、3階に居住されている方の避難について、消防署や保健師がチームとして実施し、具体的な課題等を共有する機会となった。

■直島町、三木町の担当の保健師に確認をすると、直島町においては難病者4名、小児脳性麻痺0名。三木町では難病者2名、小児脳性麻痺1名が名簿に登録されている。直島町では後方に避難行動要支援者支援制度について、広報に掲載しているが、保健師が感じる課題として、直島町は道が狭いため、避難する際に道が封鎖された場合の課題や、直島本島周辺の離島における避難行動をどうするのかといった課題があるとの意見がある。

■三木町では、独自に作成したリーフレットを年に1回全戸配布しており、各自がどこに逃げるのか、誰に助けをもらうのかといった、自助、共助の重要性を伝えている。現在、三木町では638名が避難行動要支援者名簿に登録しており、その内、消防にも情報を共有することを同意しているのが417名、内63名が計画作成を了承している。



- ヘルパー訪問時に発災したらどうするのかということを今後話し合っていきたい。
- 学校のエリアは浸水の可能性はないものの、生徒が自宅にいるときについては、保護者や地域の避難所を活用することになる。
- 災害時の避難行動や学習は数年前から熱心に行っている。地域の人たちと泊まり込みでの避難訓練を実施。課題としては地域の方との具体的な連携のイメージまではなかなか深めていくことが難しかった。
- 入所児童は、毎月必ず避難訓練を実施している。成人については、夜間火災が起きたことを想定し、地域住民、消防、警察にも加わってもらっている。参加してもらうことによって、障害をお持ちの方の避難行動等を具体的にイメージしてもらうことも目的としており、訓練後の感想や意見を集積している段階である。
- 前年度までは、施設の監査管理等を担当しており、当時は事業所における災害対策がなされているかどうかを意識していたが、非常災害時の対策は、事業所を利用している時間以外にも必要であると感じた。
- 学校の避難訓練においては、緊急放送が入った際、てんかん発作が起きたため、避難できなかった学生がいる。他の学校に比べて、校内はバリアフリーであるが、そのような状態でも難しさがある。地域においては、より綿密な計画が求められる。今後色々と助言をいただきたい。
- 各学校において避難訓練は月に1回実施しているが、学校によって個別の合理的配慮がなされた訓練をされているかどうかはバラツキがあるのが課題と感じている。
- 災害の対策は全くなされていない。
- 利用者への対応として、通勤時に被災した際の留意点などを支援員からご本人にお伝えすることはある。

災害時モデルケースがまとまってきた際には、三木町などとも共有する

<その他の意見>

- 色々な課題に対し、担当されている方が、こういった取り組みを知ってもらうことが必要。
- 協議会の活動をより多くの人に知ってもらうような啓発の工夫が必要